

平成27年度学校評価報告書(自己評価)

北九州市立 富野中 学校
校長名 山下 新三

本年度の重点目標

○〔重点目標1〕学習規律の確立と授業改善に努め、一時間一時間の授業を大切にするとともに基礎学力の定着と更なる学力向上のための取組に努める。

○〔重点目標2〕特別支援教育や不登校対策を含む全職員による生徒指体制を確立し、共通認識・協働実践による家庭・地域・関係機関と連携した積極的生徒指導を推進する。

○〔重点目標3〕自立心や自律性、生命尊重の心、自尊感情を高めるための道徳教育に積極的に取り組むとともに、地域に根ざした体験活動を推進し、豊かな心の育成に努める。

また、健康で安全な活力ある生活を送るための基礎を培う健康教育の充実を図る。

○〔重点目標4〕人権尊重の理念のもと、生徒が自他の人権を守ろうとする意識を高め、実践的な行動ができるように人権教育をより一層推進する。

○〔重点目標5〕学校・家庭・地域等の連携を一層密にし、地域に根ざした開かれた学校づくりを推進する。

○〔重点目標6〕小中一貫教育を推進し、9年間を見通した連続性・系統性のある学習指導・生徒指導に努める。

○〔重点目標7〕生徒が自らの命を大切に、場面に応じて判断し、最善を尽くそうとする態度や率先して行動する力を育む防災教育を推進する。

	a: 評価項目 (取組の内容、目標達成のための手立て)	b: 取組の状況 (データや資料等を活用して説明)	c: 評価	d: 成果及び改善方策
重点目標1	・基礎学力の定着と学力向上の取組を実践する。(手立て)学校力向上プランに沿って、計画的な実践。朝自習。放課後の質問教室。漢字コンクール、単語コンクール等の基礎学力コンクールを実施。自主学習ノートの活用。	・学力向上委員会を定期的に実施し、学力・体力向上プランに沿って取り組んだ。全国学力・学習状況調査やアンケートの結果を分析し、課題解決に向け適時有効と考えられる具体的方策を学年を中心に取り組んだ。	B	・漢字や英単語の基礎学力コンクールの取組による生徒の学習意欲づけや放課後質問教室を実施した。また、学力向上プランを作成し、全国学力・学習状況調査の結果を分析して、課題の分析と取組の確認を行った。1、2年では、自主学習ノートを作成し、家庭学習の充実に向けて取り組んだ。依然、学力等の課題はあるが、学力向上にむけて計画的かつ多面的に取り組んでいく。全国学力・学習状況調査の結果は、HPIに掲載した。
	・一時間一時間の授業を大切に、学習規律の充実と学習環境の整備及び指導方法の工夫・改善を図る。(手立て)・学習規律の決まりを学級に掲示し。職員研修。校内巡視の徹底。	・生徒指導委員会や職員会議で、掲示物等の周知をする。学習委員会を活用した取組を行う。また、問題事象の解決に学年を超えて、職員で廊下に張り付くなどの対応を行った。情報共有や管理職による校内巡視による把握に努め、組織的に手立てに取り組んだ。	B	・授業規律について作成した「みんなで授業を大切にしよう」は、学習委員会の取組として生徒に学級で呼びかけをした。若手教師を中心に、指導主事要請研修、小学校の授業見学等を実施し、授業改善に生かした。また、教育委員会からの学力向上についての取組を職員に周知するとともに、学級掲示をお願いした。年度当初と比較し学習環境は比較的落ち着いたが、学年による格差があり、学校全体での足並みの統一が難しい面があった。
	・少人数指導及びTTを取り入れた授業を推進し、個に応じたわかる授業を実践する。(手立て)教科指導、特別活動、総合学習で少人数授業を実施。学力向上の市費講師による学習補助を実施。「子どもひまわり学習塾」を実施。	・国庫少人数加配や学力向上の市費講師を活用するとともに、授業内容に応じて複数職員で指導に取り組んだ。病気休暇の職員が生じたため、授業の時間割等の組み替えを適時行った。子どもひまわり学習塾は、15名の3年生を対象に取り組んだ。	B	・本年度は、1年生の保健体育・国語・音楽においては、常時少人数授業およびTT授業を実施した。また、総合学習の取組や道徳、ALTIによる授業等、多くの授業でTT授業を行った。講師の入れ替えが数回あったため、生徒の負担があったと考えられる。学力向上の市費講師は、総合学習発表会の取組で大変有益であった。昨年に引き続き行っている「子どもひまわり学習塾」は、生徒が比較的意欲的に参加しており、進路保障につながっていると思われる。
重点目標2	・特別支援教育の推進を図り、指導体制を構築する。(手立て)・生徒指導委員会に特別支援学級担当者を加入。学級通信による情報提供。特別支援相談センターとの連携。	・平成18年度より本校に特別支援学級が設置されているが、本年度教諭が配置され特別支援教育推進の具体的取組の道筋ができた。来年度入学予定の生徒の体験学習を数回行った。	B	・特別な支援を要する生徒への指導については、個別の指導計画等を参考に、来年度より、より細かく指導にあたれるように特別支援学級担任と検討している。本年度は、担当教諭が異動一年目でもあり、職員への研修までは至らなかった。来年度特別支援学級入学の生徒について、特別相談センター・コーディネーターとケース会議を学校で開催し、体験学習を数回実施した。
	・いじめ防止に組織的に取り組む。(手立て)・いじめ対策生徒指導委員会を週1実施し、情報共有と方向性の確認。生活アンケートやQ-Uによる調査。教育相談の活用。	・生徒指導委員会を中として、いじめ調査アンケートによるいじめの状況把握や未然防止に取り組んだ。また、スクールカウンセラーによる相談活動やいじめサミット等の取組にも積極的に参加した。	B	・学校いじめ防止基本方針を学校HPに掲載。いじめ調査アンケート・生活アンケート・Q-U・教育相談等を計画的に実施して、いじめ問題の早期解決と未然防止に努めた。いじめ防止サミットに代表生徒が参加し、その取組を生徒に紹介した。いじめと思われる事案については、早期に教育委員会に報告するとともに、保護者への連絡や解決に向けての取組を組織的・計画的に実施した。
	・不登校問題に積極的に取り組む。(手立て)・不登校改善推進委員会を週1実施し、	・毎日の生徒の出席状況を学年および管理職が確認。生徒指導委員会での情報共有と具体的対		・全職員が放課後集まり、生徒の情報共有と協働行動について確認する総括を毎週1回実施した。不登校改善推進委員会で、生徒の状況把握と指導方針の確認を

2	情報共有と方向性の確認。生活アンケートやQ-Uによる調査。教育相談の活用。関係機関との連携。	応を実施した。不登校の未然防止に努めるとともに、スクールカウンセラーや少年支援室、ソーシャルワーカーとの連携に取り組んだ。	A	行った。生活アンケート・Q-U・教育相談等で、アンテナを高めて生徒情報を収集し、生徒の状況把握と未然防止に努めることができた。不登校で保護者との面談が難しいケースでは、ソーシャルワーカーとの連携ができ、改善に向けて取り組んでいる。
	・家庭、地域、関係機関等の連携による積極的な生徒指導を実践する。(手立て)・地域からの連絡や情報への早期対応。積極的な家庭訪問。細かな関係機関との連携	・管理職や生徒指導主事を中心として、学校外の関係機関との連携をとった。また、日頃より担任を中心として、家庭訪問による家庭との信頼関係の構築に努めた。	A	・家庭訪問を重視し、学校と家庭との連携に努めた。常に地域や関係機関からの情報提供に対して迅速な対応に努めた。教育委員会やサポートチーム、少年支援室やその他多くの関係機関との情報共有・協働歩調に努め、問題事象の未然防止や再発防止に努めた。
重点 目標 3	・自尊心を高めるための道徳教育を推進する。(手立て)・生活アンケート・Q-U・教育相談の実施。体験活動の実施。道徳授業の推進。ローテーション道徳の実施。	・昨年度から実施をはじめた、年2回のQ-Uの調査分析結果を参考として、生徒の自尊心や学級満足度の把握と改善に担任を中心として取り組んだ。	B	・昨年度から引き続きQ-U調査を2度実施した。生活アンケート・Q-U・教育相談による生徒の現状の把握と問題点の分析を行い、改善策を検討した。2度のQ-Uの結果比較を学級経営に生かすように働きかけを行ったが、改善の余地がある。道徳では、昨年度実施できなかったローテーション道徳が実施できた。今後も自尊心を高める継続した活動に取り組んでいくことが必要と考える。
	・あいさつ運動を推進する。(手立て)・生徒会やPTAによる取組。あいさつ運動、あいさつコンクールの実施。職員による呼びかけ。	・毎朝、管理職を筆頭に職員やPTAから生徒へ声かけを継続して行った。また、生徒会執行部が中心となり、あいさつ運動を定期的に取り組んだ。	A	・毎週行う生徒会執行部によるあいさつ運動に加え、本年度より0がつく日にあいさつ運動を実施した。PTAによるあいさつ運動や毎日の職員による声かけにより、生徒の元気なあいさつが多く見られている。生徒会により授業開始前のあいさつコンクールも実施した。朝の挨拶運動を更に活性化させていくことが必要だと考える。
	・体験活動を通して、豊かな心の育成を図る。(手立て)・ふれあい合宿、保育幼稚園体験学習や農村民泊体験、修学旅行など多様な体験活動を実施。体育大会や総合学習発表会を通して、達成感・成就感の体感を得る。	・年間計画に沿ってその行事の有用性を確認しながら、計画的に取り組んだ。また、体験活動を通して、生徒が充実感を得るように配慮した。事前準備の段階を大切に取り組んだ。	A	・1年生はふれあい合宿、保育幼稚園体験、福岡市郊外活動、2年生は農村民泊体験、3年生は修学旅行等、学校や日常では体験できない貴重な体験を通して、豊かな心を育てることができた。また、生き方や進路学習に各学年取り組み、夢や目的をもって生きることの重要性について認識を深めることができた。特に、体育大会と総合学習発表会での生徒の達成感・成就感は大きく、生徒の自主性を伸長につながった。
	・健康、食育、安全な生活を送るための健康教育を実施する。(手立て)・栄養士による給食指導。「もぐもぐ通信」の発行。アレルギー対応研修。保健だよりの発行。危機管理マニュアルに基づく避難訓練の実施。朝の登校指導。校区通学路安全点検の実施。	・栄養教諭からの食育通信を学校ホームページにアップして、食育に対する意識の高揚に努めた。アレルギーやエビベン研修を実施した。生徒の給食準備について、スムーズな配膳ができるよう通路の改善を行った。また、生徒の健康や安全については、保健だよりで適時指導や声かけを行った。校区の通学路安全点検を役所・警察・自治会	A	・円滑な給食準備が行えるよう、配膳通路を変更した。その結果、きちんと整列して給食配膳室で準備ができるように改善できた。栄養教諭が作成した「もぐもぐ通信」は継続してHPで公開した。養護教諭からアレルギー対応についてエビベンの使用について職員へ周知するとともに、医師と学校と保護者で対応確認を行った。また、インフルエンザ等への注意喚起を保健だよりで啓発した。安全指導は、今年度はじめて、警察・区役所・自治会とともに、通学路安全点検を行い、改善策につなげることができた。また、危機管理マニュアルに基づき、3度の避難訓練や薬物乱用防止
	・人権尊重の理念のもと、人権教育の推進を図る。(手立て)・教科指導およびあらゆる教育活動で人権教育を推進。	・地域をあげて人権教育に取り組む、差別やいじめを生まない取組を行うとともに、人権のカリキュラムの作成と人権授業を実施して、人権意識の高揚を図った。	A	・地域や生徒の実態を把握し、職員研修を行った。また、いじめや差別などあらゆる人権教育について教科指導をはじめあらゆる教育活動で人権感覚の育成に努めた。小学校やPTA、地域と連携して、人権研修を行った。また、人権カリキュラムの実践と反省を行った。学校評価アンケートから生徒の人権意識の高さが見られた。
重点 目標 5	・家庭、地域等との連携を積極的に図り、開かれた学校づくりを推進する。(手立て)・家庭や地域への情報発信。学校通信の定期的な発行と地域の訪問。ホームページの更新。	・地域の中の学校として位置づけ、地域からの要望等については丁寧な対応と情報発信に取り組んだ。また、地域の行事には積極的に参加し、学校の情報発信に努めた。北九州市民憲章推進モデル校に応募して決定した。	A	・学校通信を月1回は発行し、校区の関係機関等に直接配布した。校区の行事に生徒や職員が積極的に参加した。IICTサポーターの訪問が月に1回となったため、更新が遅れることがあったが、ホームページを適時更新して、学校の取組等について掲載した。学校からの配布物の確認のため、適時いっせいで重要な配布物について連絡を行った。北九州市民憲章推進補助費で、プランターに生徒が花を
重点 目標 6	・小中一貫教育を積極的に推進する。(手立て)・学校支援のための市費講師(旧:小中連携市費講師)の活用。こんにちは6年生の実施。交流会や3校合同研修会の実施。	・教師間、生徒間、行事等において、小学校と密接に連携を取り、小中連携を推進してきた。3校研修会や職員保護者によるバレー大会、こんにちは6年生等、児童生徒と3校職員の交流に努めた。	B	・全市の新入生のための中学校説明会の他に、「こんにちは6年生」を実施して中1ギャップの解消に取り組んだ。小中連携通信を発行したが、1号で終わった。学校支援のための市費講師が小学校を訪問していたが、後半中学校常駐が多くなり、小学校に負担をかけた。小学校での給食交流や3校合同人権研修会を3回実施した。
重点 目標 7	・防災教育を推進する。(手立て)・避難訓練の実施と防災について説明。	・生徒の防災意識を高めるための年3回の避難訓練の取組と防災意識の向上に向けての説明を行った。	B	・本年度は、火災・竜巻・地震の3回の避難訓練を計画的に実施した。生徒には、避難訓練の意味や防災教育の大切さについて説明した。今後も継続した実のある防災教育が必要と考える。

※評価(例) A…目標を十分に達成できた B…目標をほぼ達成できた C…あと少しで目標が達成できた D…目標達成までいかなかった